様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２９ 日現在

機関番号：２８００１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５２０１７１

研究課題名（和文）琉球古典音楽の実技教育における音楽基礎能力の養成方法

研究課題名（英文）The training method of the basic musical education on Ryukyu Classical Music

研究代表者
近藤　春恵（KONDOH, Harue）

沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授

研究者番号：５０３１６２０４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：　琉球古典音楽は沖縄独自のものであり、その実技教育方法も独特で一種の奏法譜である「工工四」を用いている。そのため西洋音楽における音楽基礎能力の、特に五線記譜法に関しての養成方法－すなわち「ソルフェージュ」－では未だ日が浅い。一方、昨今では、一つのジャンルにとどまらずあらゆるジャンルでのアンサンブルが一般化されており、琉球楽器奏者のための養成方法が求められている。この現状を鑑み、本研究では琉球楽器初心者・教授者のためのメソッドを立ち上げ、リズム・視唱読譜・初歩的和声付の基礎的練習に関する実践的な教材および指導書を作成した。

研究成果の概要（英文）：　Ryukyu classical music is peculiar to Okinawa, which has a individualistic educationalskillbased on “Kunkunshi”,a kind of tablature.Therefore,it is behind as for the westernized musical training method ,inother words “Solfege”,especially the staff notation.While recently,it is popular to collaborate as ensemble with not only each single but also all the musical genre,so we need to get the certain skill and training method for performers of Ryukyu instruments.
In a view of such a present situation,we achieved to build up the method and put the practical textbook in order,which was based on the basic practices of rhythm,sightreading and elementary harmonizing for beginners and the teachers at performing Ryukyu instruments in this study.

研究分野：作曲

キーワード：solfege　formation musicale　創作　現代邦楽

１．研究開始当初の背景

(1) 琉球古典音楽は古来より沖縄で独自の記譜法・口伝等で伝承されたものであり、その実技教育は独特である。そのため、西洋音楽における五線記譜法のような統一された音楽基礎能力に関しての養成方法(ソルフェージュ)はまだ日が浅い。

(2) また昨今では、一つのジャンルにとどまらずあらゆるジャンルでのアンサンブルが一般化されており、琉球楽器奏者が参画しての音楽作品も求められている。このような現状に即した次世代の琉球楽器奏者のための音楽基礎能力の養成方法というものが求められる。

２．研究の目的

(1) 全国で唯一の専攻である琉球古典音楽専攻の学生たちが、古典のみに留まらず、新しい作品を創作・演奏できる能力を育むために、ソルフェージュ能力、すなわち「楽譜を読んで弾き、歌う」能力を涵養することを目指す。

(2) 西洋音楽の教授方法をそのまま適用するのではなく、民族的な感性を尊重した新しい音楽基礎能力の教育方法を立ち上げる。

(3) 最終的に新たな体系的教育方法を再編し、教材集及び指導書を作成する。これらの成果物を公開する。

３．研究の方法

(1) 邦楽・琉球音楽分野での音楽理論・ソルフェージュの分野で実績のある大学、研究機関に赴き、教科担当教員、演奏家（東京藝術大学音楽学部邦楽科/深海さとみ准教授、洗足学園音楽大学現代邦楽研究所/森重行敏教授、山口賢治教授）から情報を聴き取り資料収集し、レクチャーを聴講した。

(2) 平成 24 年度に 3 回、本学講師を対象とした研究会(杉本信夫氏、池田美奈子氏、大城治氏、桑江絢子氏、瑞慶覧尚子氏、三島わかな氏、山城香苗氏)を開催し、琉球芸能専攻学生に対するソルフェージュ教育の問題点について明らかにしていった。

(3) 邦楽・琉球音楽以外でも、洋楽におけるソルフェージュ研究協議会における研究発表、レクチャーでの事情聴取・授業視察（名古屋音楽大学/舟橋三十子教授、京都市立芸術大学/岡田加津子准教授、同大学/岸邊百百雄名誉教授、上野学園音楽大学/佐怒賀悦子教授、同大学/村上曜子教授、京都こどもの音楽教室室長/長谷川智子氏)、また具体的な情報として既に刊行され実践されている国内外のFormation Musicaleに関する教材を収集した。

(4) 国内外での音楽祭等の現場で、民族楽器を含む作品における演奏家（吉村七重氏、田村法子氏、福原佐和子氏)、作曲家（京都市立芸術大学/中村典子教授、滋賀大学/若林千春教授、香港大学/陳錦標准教授、シンガポール国立大学/何志光准教授）から意見交換し、本研究の先の展望考察しつつ教育指導の基本方針を策定した。

(5) 平成 26 年度から実際に作成した指導教材を使い、沖縄県立芸術大学音楽学部内の授業で試行実践を行った。

４．研究成果

(1) 平成 24～25 年度にかけての調査、資料収集を踏まえ、最終年度の平成 26 年度に「琉球古典音楽の実技教育における音楽基礎能力」の具体的な教材テキストの作成を目指した。

(2) 琉球芸能専攻学生に限らず、音楽における洋楽系学生のソルフェージュ初級者、とりわけ

晩学の学習者への指導研究の重要性も新たな問題として浮き上がった。これは義務教育にさかのぼる包括的な問題をも含み、本研究の領域から更に広げて考察すべき課題である。この様な背景を踏まえ、特に沖縄県内の学生に固有の教育事情も鑑みて、琉球楽器を使った創作に関する内容は次なる継続研究の目標とし、本研究における教材領域を「視唱」「読譜」「簡易な創作」「和音と旋律」の基礎能力に関する範囲とすることにした。

(3) 研究成果としての教材製作については、当該研究者の所属する沖縄県立大学学生の授業の中で実践をめざした。現行の琉球芸能専攻学生のためのソルフェージュ授業のカリキュラムを基本的に念頭に置くと同時に、広く一般的な初心者への指導にも応え「歌う」という演奏行為と客観的な「読譜」を反復しながら意欲をもって取り組めることを目標にメソッドを立ち上げた。

(4) 具体的には合計 2 か年のカリキュラムを想定し、音楽基礎の初心者である 1 年次において基礎的な「導入編」「基礎編」として、続く 2 年次においてその次の段階の「発展編」として教材を作成した。その要点は下記の通りである。

① 練習課題は「視唱」を中心とした。五線譜読譜の初心者のための導入編として、まず基礎的なリズム練習を徹底させる課題を置いた。また自発的な音楽性の啓発として「即興」を重視する意味で、中途段階での「言葉とリズム」での音律を伴わない言葉の即興の課題を設けた。

② 長調、とりわけハ長調(C-dur)の課題を中心とした練習を徹底した。

③「移動ド・固定ド」について、本研究の教材では「固定ドにおける相対音感を身につける」ことを基本方針とした。また、相対音感としての和声機能の中での音程感覚を身に着けさせるために、旋律の視唱課題にはすべて、指導者のみならず初心者でもこなせるレベルの簡易伴奏譜を添付した。

④ ハ長調内での読譜力が付いた次の段階で、更に五線譜読譜力を引き出すために、視唱練習と同時に創作的な練習課題を並行させて行い、学習者の自発性を促した。

⑤ 短調について、学校教育における「音楽」教材では一般的に「平行調(ハ長調に対しイ短調)」として扱われるが、本教材では「長調、短調の音階の各音度における音程の違い」を意識しながら注意深く聴く態度を体得させることを目指し、昨今のソルフェージュ視唱教材で扱われている例にも倣って「同主調(ハ長調に対しハ短調)」として扱った。

⑥ 選曲に関しては、一般的によく知られている既存曲、研究者の作曲による曲の他、琉球古典音楽の特殊性から旋法的な特色を意識させることも配慮した。

(5) 以上のテキストを私製印刷により製作し、平成 27 年度授業から本学琉球芸能専攻ソルフェージュ授業で使用する。

主な参考文献：

① NHK 邦楽技能育成会編『日本音楽の理論と実践』平成 12 年
② 間宮芳生著『にほんのこども１，２』全音楽譜出版社　1979 年
③ コダーイ(大熊進子訳)『ビチニア　フンガリカ 1，2』全音楽譜出版社 1990-2007 年
④ 小島律子監修『日本伝統音楽の授業をデザインする』暁教育図書　平成 20 年
⑤ Georges Dandelot『Manuel pratique,

Nouveau Solfege Moderne-Nouvel edition revue et augmentee sous la direction de Bruno Giner, Aimelle Choquard』Max Eschig 1999
⑥ Georges Dandelot『Etude du Rythme』Musicales Alphonse Leduc 1983
⑦ Jean-Pierre Couleau(細野孝興監修、舟橋三十子訳)『Le Matin de Musiciens-Formation Musicale, Cahiers de Debutant 1 cahier A,B』Musicales Alphonse Leduc 2009 年
⑧ ロラン・テシュネ(関根敏子訳)「ソルフェージュ：明日の為の教育方法（2)」『東京藝術大学紀要』第 31 集、平成 18 年 3 月
⑨ ロラン・テシュネ(関根敏子訳)「即興：内的ソルフェージュ」『東京藝術大学紀要』第 33 集、平成 20 年 3 月

５．主な発表論文等

[楽譜]

(1) 近藤春恵〈Madder Fantasy〉JFC-1403 一般社団法人 日本作曲家協議会 (JFC),2015 年 1 月 30 日

[作品発表]

(1) 近藤春恵〈2 台チェロのための“ユングトゥときいぷぞう”〉
「日本の作曲家 2015」JFC/サントリー･ホール(2015 年 1 月 23 日)

(2) 近藤春恵〈Frottage〉
Asian Composers League Festival in Tokyo/渋谷区文化総合センター(2014 年 11 月 5 日)

(3) 近藤春恵〈ヴァイオリン、三線の為の Moh-ashibi Ⅱ〉
「永遠の響きⅡ」演奏会/浦添市てだこホール（2014 年 9 月 15 日）

(4) 近藤春恵〈ソプラノ、20 絃箏の為の“あかね幻想”〉
「アジアの管絃の現在２」シンポジウム/京都市立芸術大学（2014 年 5 月 25 日）

(5) 近藤春恵〈2 台ピアノの為の Mabui Ⅲ〉
沖縄県立芸術大学音楽学部室内楽定期演奏会/同奏楽堂（2013 年 10 月 19 日）

(6) 近藤春恵〈ソプラノ、ピアノの為の“雪と魚”〉
Asian Composers League Festival in Singapore-“The art songs of the Asian composes”/Singapore University/シンガポール（2013 年 9 月 22 日）

(7) 近藤春恵〈リコーダー、歌三線の為の Shui-bushi〉
沖縄県立芸術大学 レクチャー・コンサート/同大学大合奏室 (2013 年 2 月 1 日)

(8) 近藤春恵〈声、箏、十七絃箏の為の“石仏”〉
「新しい日本歌曲の会」定期演奏会/津田ホール（2012 年 8 月 29 日）

[その他]

製作教材集『琉球音楽の為のソルフェージュ』
（ 教員総覧／音楽学専攻・近藤春恵 ）
http://www.okigei.ac.jp/outline/teachers/

６．研究組織

(1) 研究代表者
近藤 春恵(KONDOH, Harue)
沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授
研究者番号：50316204

(2) 研究分担者
金城 厚(KANESHIRO, Atsumi)
沖縄県立芸術大学・音楽学部・教授
研究者番号：50183273